ディベート中級講座

北海道支部副支部長　岡山洋一

私は現在、官公庁、企業、大学、専門学校などでディベートを教えています。北海道支部や各中学・高校でも指導をしています。

本稿では、今年私が北海道支部で行ったディベート中級講座、中国支部で行ったディベート教室の講座から簡単な内容を紹介したいと思います。講座は大きく分けると以下の３点から成り、解説と演習を通して理解を深めてもらいました。

１．立論の構造

主に肯定側立論の構造について話しました。肯定側は論題を肯定するために、メリットを出します。通常メリットを証明するためには、発生過程と重要性を言わなければなりません。しかし最近は現状分析、原因分析などを入れ、複雑な構成のものが多くなってきました。

現状を分析して、そこから問題点を出し、原因を分析し、プランで解決する、こういう流れの肯定側立論もあります。この場合のメリットとは、現状にある問題を解決することになります。

しかしこういう形の立論を作ったときに、単純にプラン、現状分析、発生過程、重要性と並べてしまっただけでは、分かりにくい立論になってしまいます。何のために現状分析をしたのかを明確にし、はっきりとメリットを提示して欲しいと思います。

立論の最初に現状分析が延々とあり、最後に発生過程、重要性が申し訳程度についているような立論は分かりにくいです。実はこういう立論は、組み立て方を変えると分かりやすくなります。講座では、どのように並べると分かりやすくなるかを中心に話をしました。

２．論理の組み立て

ディベートは論理を扱います。より論理的に、より強い証明を行った方が勝つことができます。ではこの「論理的」「証明」とは、そもそもどういうものなのでしょうか。

何かを主張するためには、根拠が伴っていなければなりません。主張に根拠がきちんと伴っている状態を論理的といいます。では根拠とは何でしょう。

根拠とは、「データ」と「理由付け」から成り立っています。「データ」とは客観的事実、実例、統計資料などのことです。

「理由付け」とは、推論、一般常識、因果関係などのことです。なぜこのデータからこの主張が導き出されるのかという理由を「理由付け」といいます。

これはトゥールミン・モデルといわれるものです。講座ではこのモデルを使用し、演習を通して理解してもらいます。このモデルを理解すると、相手のどこに反論すると良いのかが分かります。

３．カードチェック

カードチェックとは、証拠資料のチェック、つまり証拠資料への反論です。どうやって証拠資料へ反論したら良いのかを学びます。相手の証拠資料に直接反論せず、相手と反対の証拠資料をただ読むだけでは、反論としては不十分です。これでは審判は、いったいどちらの証拠資料を採って良いのか分かりません。

相手の証拠資料がきちんと相手の主張をサポートしているのか、証拠資料にきちんと理由が入っているのかをチェックしなければなりません。

証拠資料への反論方法を学ぶことによって、自分たちの証拠資料の質も向上させることができます。このような証拠資料では弱いから違うものに変えるというように、証拠資料も吟味していくようになります。

以上の３点を中心に講座を行いました。これだけではなく、いずれはディベート中級者のために、立論、質疑、反駁、審査などの全ての講座を行ってみたいと思っています。１日や２日では終わりそうもないですね。